

(新規課題)

NO. 16	技術開発 課題名	常設としてリユース可能な複層の応急仮設住宅をホテルとして備蓄することに関する技術開発		
事業者	株式会社 吉村靖孝建築設計事務所 株式会社 マイプランニング			
技術開発 経費の総額 (予定)	約 18.2 百万円	技術開発 の期間	平成 23 年度～ 24 年度	
<input type="checkbox"/> 1 住宅等におけるエネルギーの効率的な利用に資する技術開発 <input checked="" type="checkbox"/> 2 住宅等に係る省資源、廃棄物削減に資する技術開発 <input type="checkbox"/> 3 住宅等の安全性の向上性に資する技術開発				
背景・目的	東日本大震災で露呈した応急仮設住宅の土地不足・解体後の廃棄物問題解消をめざす			
■技術開発の概要 ①【複層化による土地不足の解消】 ・複層化に対応可能な基礎・フレームの設計 →基礎のプレファブ化に関する検討 ②【リユースと常用ストックによる廃棄物処理問題の解消】 ・リユース・常用ストックに対応する汎用性・更新性に優れた仕様の検討 →用途やプランの変更に伴う仕上げ・開口・壁位置の変更が簡易な仕様の検討 ・リユース・ストックのスキームの確立 →平常時からのストック方法・転用時の輸送体制などに関するスキームの確立 ③【応急仮設住宅としての基本的性能の向上】 ・遮音性、断熱性能など常設としての居住性能を備えた仕様の検討 ・国内生産による低価格生産体制の確立 ・大量の発注に対応可能な生産体制の確立 ・工期の短縮が可能な施工体制の確立 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">上記を試作品の製作を通じて検証・技術開発する</div>				

20フィートコンテナの規格を利用した
エクソコンテナ・プロジェクトのCG写真
手前：平屋のスタンダードタイプ。
奥：二階建てタイプ。



参考事例：ベイサイドマリーナホテル横浜
敷地搬入時の様子



総評

仮設住宅をホテル客室として備蓄する本技術開発は、喫緊の課題に関する提案であることを評価する。技術開発に当たっては、仮設住宅として活用する際の有効性の検証とそのための技術改良に焦点を絞った計画とすることが求められる。